

# かお・人・interview

2020年10月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
延岡河川国道事務所 所長

## 甲斐靖志氏

yasushi KAI

延岡河川国道事務所は、五ヶ瀬川の河川整備と道づくりを担っている。清流五ヶ瀬川は「水郷延岡」にふさわしく、全国の一級河川の中で7年連続トップクラスを維持。また、道路事業では東九州道の維持管理に加え、九州中央道の整備区間では、新規事業がスタートした。ふたつの事業に対して地域住民の関心は高く、経済と文化の連携が期待される。今後の取り組み、課題などについて新任の甲斐所長に話を伺う。

### Q 所長就任にあたっての抱負

宮崎県内の勤務は初めてでわからないことばかりですが、様々な地域の方々と話をさせていただくと我々が進めている事業にとっても関心があり、応援してくださっている方が多く大変ありがたいことだと感謝しております。



▲上から見た五ヶ瀬川

まず、河川関係ですが、五ヶ瀬川は延岡市街地に入ったところで大瀬川と分派し、さらに河口付近で祝子川と北川が合流する複雑な河川形態となっています。歴史的土木構造物として日本に3カ所しか残っていない「昼堤」や300年以上続く伝統漁法「鮎やな」など貴重な土木遺産や観光資源が豊富に存在しています。令和2年度は、五ヶ瀬川・大瀬川分派事業や河川防災ステーション事業を最優先に取り組んでいきたいと考えています。

道路関係では、東九州道の大分県佐伯ICから延岡南ICまで約66km、九州中央道は現在約16kmを管理しています。現在整備を進めている九州中央道は、地域の発展に不可欠な道路であり、令和2年度は新規事業化した蘇陽五ヶ瀬道路、現在事業中の五ヶ瀬高千穂道路の整備推進とともに、令和3年開通目標の高千穂日之影道路も地元のご理解を得ながら早期に開通できるようしっかり進めていきたいと思っています。



地域に対する見方も、着任する前後では異なります。  
今まで以上に周囲の意見に耳を傾け、  
地元が求めているものを何か考えていきたい。

また、管内自治体において風水害や土砂災害等が発生した際には、自治体からの要請を受け職員を派遣し、連絡調整や被害状況の調査など、被災自治体のサポートを行って参りたいと思います。

#### Q九州や宮崎、延岡との関わりについて

父が高千穂町出身なので、宮崎県内の事務所で一度は経験したいと考えていました。本局に勤務しているときに出張で数回は訪れていました。ですが、着任する前と後では、地域に対する見方も異なり、新鮮な感覚で周囲の意見に耳を傾けています。

そうすることで何に困っているのか、地域のニーズは何なのかを理解しながら地元の期待に応えられるよう努力していきたいと考えています。

#### Q当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

当事務所は、8課、3出張所において期間業務職員

まで含めると約80名の職員で構成されています。

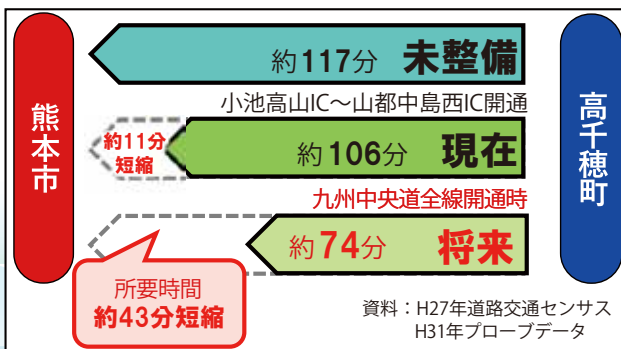
河川事業では、五ヶ瀬川水系で国が管理する区間での改修・維持管理を行っています。特に概ね30年に1度の洪水に対して安全に流下させるための事業として、「五ヶ瀬川・大瀬川適正分派対策」について、整備を推進しています。

また、防災時の拠点として整備を推進している「天下(あもり)地区河川防災ステーション」、関東の鬼怒川破堤を契機として破堤しにくい堤防整備、さらには、環境整備事業として、平成25年に策定した「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」に基づき延岡市と連携しながら実現に向けて、整備等を展開中です。

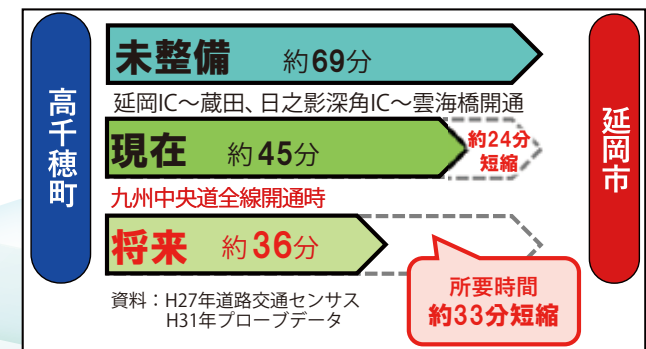
道路事業では、国道10号、東九州自動車道(佐伯IC～延岡南IC間)、九州中央自動車道(雲海橋交差点～日之影深角IC間、蔵田～延岡JCT間)の維持管理を行っており、令和3年には、九州中央自動車道(高千穂日之影道路)の日之影深角IC～平底交差点間(L=

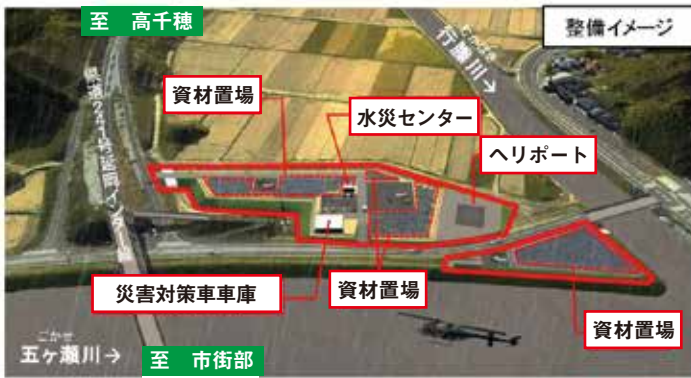
## 九州自動車道に期待される効果

### ■高千穂町～熊本市間の所要時間



### ■高千穂町～延岡市間の所要時間





▲整備中の天下地区河川防災ステーションの整備イメージ



### Q 地域との連携・協働について

河川では、かわまちづくりの3つの拠点となる「回遊で

きる散策路」「文化自然活動ゾーン」「自然の恵み体験拠点」(鮎やかな周辺の整備)の整備を行い、これまで「かわあそび in 五ヶ瀬川」「延岡花物語」「五ヶ瀬川イカダ下り」などのイベントの場の提供や支援等を行ってきています。平成



▲町中カヌーツーリング

26年に策定された「天下一五ヶ瀬かわまちアクションプラン」により、「水郷延岡」にふさわしい河川整備やイベント等かわまちづくりを積極的に展開することにより、観光客の増加や地域活性化に寄与していると考えています。

2.3km)の供用を目指しています。現在事業中の五ヶ瀬高千穂道路(L=9.2km)に加え、令和2年度から蘇陽五ヶ瀬道路(L=7.9km)が新規事業化され、今後測量や地質調査等を進めていく予定です。また、門川日向拡幅については、関連工事を鋭意推進中であり、これらの事業を早く完成できるように進めていきます。

### Q 今年度の事業概要

当事務所の令和2年度は、約61億円です。そのうち道路事業が約51億円を占めています。

道路事業では、九州中央自動車道の改築関連とその他維持管理関連でほぼ半分ずつという状況です。残る河川事業では、五ヶ瀬川水系の改修と維持管理関係で半分ずつという状況です。



九州中央自動車道の整備率は約3割。まだまだ道半ばですが、九州全体の広域ネットワークの充実のためにも非常に重要な路線です。クリアすべき課題は多いですが、解決できるよう努力していきます。



▲大瀬川沿いの散策路でのマラソン大会

道路では、平成12年度に「ボランティアサポートプログラム」を導入し、地域や企業の方々に道路の美化清掃に参加していただくなど快適な道づくりを進めてきています。また、平成15年度からは、清掃・美化活動や道路の不具合・異常を発見し、通報していただくなど「道守」としてボランティアで協力をいただいています。

現在、九州では、約7.5万人、宮崎県内では約9千人、県北では約4千人の方が活動しています。

### Q 地域建設業への要望・メッセージ

働き方改革や新型コロナ対応など、建設業を取り巻く環境は、以前にも増して厳しい状況になっていると考えています。そのような状況下で大規模災害が各地で頻発しています。建設業界は今までも増して、地域を守るという役割が大きくなってくると考えています。そのためには、若手技術者にとって魅力のある建設業界であることが求められます。

業界にとって大事なことは、若者に興味を抱いてもらうことです。それには、週休2日など4週8休の取り組みが重要になります。宮崎県の建設関連の会社はそのことを承知していますし、少しずつ前に進んでいます。

これからの人口減少や高齢化がますます進む中



▲ボランティアサポート活動



▲ボランティアサポート活動



で、安全・安心であることはもちろん、女性にもやさしい職場環境ができるよう、連携して取り組んでいけたらと考えています。

### Q 業界に入ったきっかけ、健康法について

父親が宮崎県庁にいました。それから日本道路公団に転職し、名神高速道路の仕事に携わっていたと聞きます。一度、神戸の現場に連れていってもらったとき、「こんな大きな道路を…」と感動したのを覚えています。父親の背中を追いかけるように、自分も大きな仕事をしたい、それがこの道に入ったきっかけです。

基本的に体を動かすことは好きです。様々なスポーツを経験しましたが、20年近く続けているのは、ウォーキング・ジョギングです。毎週土日に10~15kmくらい歩いています。歩くスピードだからこそ、景色の美しさに感動したり、新しい発見や気づきがあります。最近は、探検気分です。路地裏を好んで歩いています。

### プロフィール



出身地：福岡県久留米市  
生年月日：昭和39年8月  
S62年4月 建設省入省  
(鹿児島国道工事事務所 調査課)  
H4年4月 道路局 国道第二課  
H10年4月 運輸省 第四港湾建設局 企画課  
H12年4月 道路部 道路計画第一課  
H15年4月 鹿児島国道事務所 建設監督官  
H20年4月 福岡国道事務所 計画課長  
H22年4月 長崎河川国道事務所 工務課長  
H26年4月 企画部 技術管理課 課長補佐  
H28年4月 福岡国道事務所 副所長  
H30年4月 道路部 地域道路課長  
R2年4月 現職